科学史事典

2021年 5月 刊行

Encyclopedia of the History of Science

日本科学史学会 編

A5判・758頁

定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30606-2

科学史上の重要概念を中項目で解説

日本科学史学会の編集のもと、科学史上の重要な概念から現代の科学技術が直面する問題まで多岐にわたるトピックを網羅的に扱った「読む」中項目事典。科学史上の基本となる学説・概念の丁寧な解説に各章が割かれている第一部、そして研究不正、生命・ロボット、原発、パンデミックなど社会とかかわる科学技術の在り方を問うた第二部からなる。

関 連 書 籍

35の名著でたどる科学史

科学者はいかに世界を綴ったか

小山 慶太 著
四六判・216頁
定価1,980円(本体1,800円+税10%)
ISBN978-4-621-30370-2

科学史において重要な書籍を35冊取り上げ、内容に加えて背景や与えた影響も解説。案外知らない名著の内容と、科学史の舞台裏も垣間見える、科学の名著の世界を案内する。

数学史事典

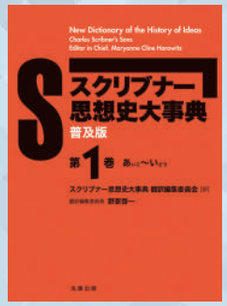
日本数学史学会 編
A5判・746頁
定価26,400円(本体24,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30522-5

「数学史」が時代背景と数学以外の科学・技術とのかかわりの中でどう生まれたのか。日本数学史学会の編集の元で、全世界の数学と数学史を一望のもとに収めた事典。

社会思想史事典

社会思想史学会 編
A5判・884頁
定価22,000円(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30341-2

ルネサンス期から現在までの展開を見通せるように時系列に沿った構成。社会思想史学会が全面的に編纂に携わった「読む事典」。



普及版 スクリブナー思想史大事典 全10巻

スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会 訳
野家 啓一 翻訳編集委員長
B5判
揃定価264,000円
(本体240,000円+税10%)
〔分売可〕
各巻定価26,400円
(本体24,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30524-9～30533-1

旧版原書から40年ぶりの新版邦訳ついに刊行!哲学・思想・宗教・文学・言語・心理・芸術・政治・経済・社会・教育など、学問の枠を超えて、時代の知の形態と変容に関心をもつ研究者必須の総合事典。

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 書籍営業部 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 https://www.maruzen-publishing.co.jp

丸善出版株式会社 行　FAX 03-3512-3270

注文書

科学史事典　定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30606-2　冊

冊

お名前

ご住所　〒

TEL

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。
※セット商品は全巻刊行後にお手配させていただきます。

tkp.21.A0A

Encyclopedia of the History of Science

科学史事典

日本科学史学会 編

A5判・758頁 定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30606-2

編集委員長

斎藤　憲
大阪府立大学 名誉教授

編集幹事

伊藤 和行
京都大学大学院文学研究科 教授

佐野 正博
明治大学経営学部 教授

杉本　舞
関西大学社会学部 准教授

橋本 毅彦
東京大学大学院総合文化研究科 教授

林　真理
工学院大学教育推進機構 教授

編集委員

綾部 広則
早稲田大学理工学術院 教授

飯田 香穂里
総合研究大学院大学先導科学研究科 准教授

岡本 拓司
東京大学大学院総合文化研究科 教授

佐藤 賢一
電気通信大学大学院情報理工学研究科 教授

瀬戸口 明久
京都大学人文科学研究所 准教授

田口 直樹
大阪市立大学大学院経営学研究科 教授

山田 俊弘
大正大学 非常勤講師

吉本 秀之
東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授

(五十音順)

最新情報・詳細はこちらから!
丸善出版ホームページへ

◆電子書籍のお求めはこちらから

MeL Maruzen eBook Library　LibrariE　KW Knowledge Worker　UNIV. Co-op　honto　Kindle

詳細はこちらへ

丸善出版

刊行にあたって（一部抜粋）

本事典は，科学史の全分野を網羅する事典としては『科学史・技術史事典』（弘文堂1983年）以来のものです．この間，科学技術はコンピュータと遺伝子科学・工学を筆頭に大きな発展をとげました．一方で科学史の研究の進展により，過去の科学について何となく信じられていた多くの物語が大きく修正されています．新たな事典の必要性は，あれこれの言葉で正当化するまでもなく，認めていただけることと思います．

しかしそもそも科学史とは何なのか，その目的や意義は何か，研究者の間でも意見は多様です．今年創立80周年を迎える日本科学史学会の記録からも，戦争協力から科学批判まで，多様な立場があったことが分かります．無定見な迎合は反省すべきですが，科学史とは何かという絶えざる議論こそが，科学史に柔軟性を与え，この分野を今日まで存続させてきたともいえるでしょう．

議論が絶えないとはいえ，我々の生活を覆い尽くさんばかりの科学技術に対して冷静な視点を提供することが，科学史の重要な役割の一つであることは確かです．そのためには，近現代だけでなく，近世以前や非西欧地域の科学史から得られる知見も欠かせません．本事典の構成はこの共通認識に立脚するものです．

本事典は中項目主義をとりました．事項や人名を調べるには，常に情報が更新されるインターネットが便利です．出版の瞬間からデータが古びていく書物は太刀打ちできません．しかし，読み切り型のトピックスを設定して，各項目が2頁あるいは4頁で完結する中項目事典は，重要なテーマや論点を一目で把握できます．情報が断片的で信頼性も問題になるインターネットでは不可能なことです．また特別な知識がなくとも，興味を持った項目から読み始めて，読み進めるうちに科学史の全体像が自然と頭に入ります．つまり入門書としても最適なのです．版元の丸善出版は，読むことを前提とした中項目事典を数多く出版しており，その豊富な経験のおかげで，レイアウトや項目間の相互参照など，随所にさりげない工夫の凝らされた使いやすい出来上がりとなりました．

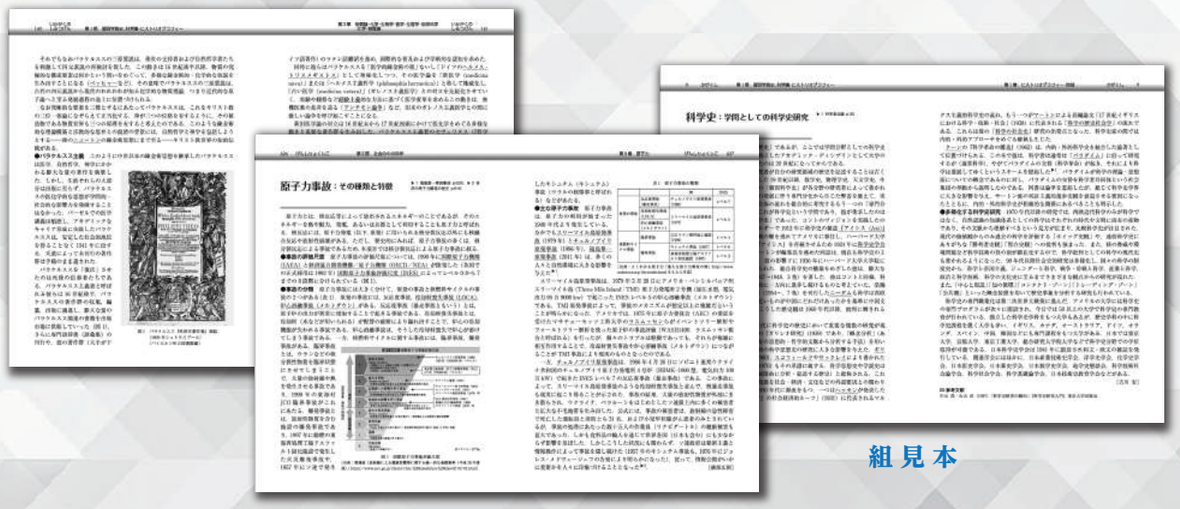
本事典の刊行は東京電力福島第一原子力発電所事故の10年後にあたります．この事故によって，1960年代の核戦争の恐怖以来，ふたたび原子力に批判的な目が向けられることになりました．本事典では原子力に一章を割いて，この技術の草創期からの歴史を記述しています．そこから，科学技術の展開が，政治，社会．文化によって大きく規定されることが分かります．原子力の開発は東西冷戦にもアニメにも影響を与え，またそこから影響を受けましたこのことは，技術者でない一般市民も，科学技術の展開に関与してきたし，関与できることを意味します．むしろ否応なく関与させられるというべきでしょう．（中略）

本事典は，「調べる」ことよりも「好きな項目を読む」ことを前提にしています．コペルニクス『天球回転論』冒頭の文句を最後に紹介しましょう．

買って，読んで，お楽しみあれ．(eme,lege, fruere.)

2021年3月吉日

編集委員長 斎藤 憲



組見本

目　次

【第Ⅰ部　個別学説史，科学論・ヒストリオグラフィー】

■第1章　ヒストリオグラフィー・地域

序説／科学史／〈ヒストリオグラフィー〉科学と技術／歴史の中の科学と技術の交流／実験／科学装置／グラフ・ダイアグラム／中世の科学／ルネサンスの科学／ 17世紀科学革命／科学革命論／科学観／科学者／自然／機械論／科学とキリスト教／科学社会学／〈地域〉翻訳と知識の伝達／中心と周縁：イギリス編／中心と周縁：フランス編／中心と周縁：ドイツ編／中心と周縁：ロシア・ソ連編／アメリカの科学／インドの科学／中国の科学／朝鮮の科学／バビロニア・エジプトの数学／イスラームの科学

■第2章　数学・天文学・物理学

〈空間・時間・物体〉パルメニデスの衝撃／アリストテレスの世界と宇宙／時間／光学／望遠鏡／近現代の宇宙論／真空／ 20世紀の顕微鏡／シミュレーション／〈力とエネルギー〉力学の誕生と発展／電磁気学／相対性理論／量子論／放射能と原子核／素粒子／熱力学、統計力学／〈数学における論証と計算〉／証明の発明／ギリシャ数学の発展／アテネとアレクサンドリア／音楽と数学／計算天文学の成立と発展／占星術／ 16世紀の数学／代数学の展開／微積分／ 19世紀の数学／ 20世紀の数学／統計学

■第3章　物質論・化学・地球科学

〈化学・物質論〉錬金術／冶金と鉱山技術／医化学の出現／ヘルモント主義とボイル・ニュートン／パリ王立植物園と化学教授職／フロギストン説とニュートン主義化学／化学親和力から周期表へ／化学革命／化学における原子と分子／有機化学／無機化学と分析化学／物理化学と量子化学／化学における法則／原子論／〈生物・医学・生理学〉／古代ギリシャの人間観・生命観／ガレノス／アラビアの医学／生気論／細胞／自然選択説／遺伝学／欧米における優生学の展開／進化の総合説／分類学／生態学／発生学／ヒトの生物学／霊長類学／分子生物学の時代／植物園／動物園／博物館／細菌学／ウイルス学／ワクチンと予防接種／免疫学／解剖学／血液循環論／病院／精神医療／〈自然誌・地球論・地球科学〉ナチュラルヒストリーと鉱物・地理／形成力／地球論の発生／地球論の展開／地質学の成立／地質学の発展／ウェゲナーと大陸移動説／プレートテクトニクス／地球の年齢／化石の意味とナチュラルヒストリー／結晶の文化史／地質学の図像表現／地球の内部構造／気象学史／海洋学史／地球物理学の歴史／フンボルティアン・サイエンス／科学の地理学

■第4章　日本の科学史

帝国大学と近代日本の科学・医学・工学・農学／翻訳から自立へ／西洋数学の受容と展開／東洋医学の展開／脚気／細菌学・衛生学の導入と衛生の制度化／進化論／日本における優生学の展開／ハンセン病　日本の遺伝学／日本における重力・地磁気測定の歴史／地震学／気象学・気象事業／物性物理学・エレクトロニクス・情報科学／「化学の京都学派」とその周辺／帝国の学術調査／「科学の体制下」の実態　科学論の日本的展開／大衆文化の中の科学／仮説実験授業／過誤と不正と醜聞／和算の成立と発展／和算から洋算へ／江戸時代の天文暦学／江戸時代の測量術／江戸時代の医学／江戸時代の化学／洋学（蘭学）／江戸時代の自然観／江戸時代の本草学／お雇い外国人／黒色火薬

【第Ⅱ部　社会の中の科学】

■第5章　科学と社会

ノーベル賞／大学の成立／学会・科学アカデミー／日本学術会議／科学の言語／科学論文／研究公正／科学教育史／科学教科書／科学事例史法／科学雑誌／科学博物館／博覧会と科学技術／百科事典／科学コミュニケーション／科学技術への市民参加／科学者の社会的責任／科学と標準／科学とジェンダー／科学と疑似科学

■第6章　生命科学

組換えDNA技術からゲノム編集へ／遺伝子組換え作物／ヒトの遺伝子診療／ヒトの遺伝子改変／生物特許／社会生物学論争／人工生殖技術／発生工学／再生医療／人体実験／献体と献血／臓器提供／脳と人の死／動物実験／バイオリソース／生命の創造／サイボーグ／生体認証／生命倫理／性差の生物学／新優生学／バイオセキュリティ

■第7章　科学と環境

〈産業と環境〉公害／産業発展と地球温暖化問題／環境アセスメント／廃棄物問題／再生可能エネルギー／緑の革命／大気汚染／アスベスト公害／土壌汚染／〈生物学と環境〉農学と農業／林学と森林／野生生物／農薬と害虫／肥料と土壌／生物多様性／養殖真珠と天然真珠／捕鯨／〈医学と環境〉／パンデミック／紫外線／〈土木工学と環境〉ダムと治水／〈地球科学と環境〉人新世／地球科学と災害／天気予報／地球温暖化／自然保護／化石燃料／PCB／環境ホルモン

■第8章　科学・国家・産業

蒸気機関と産業革命／近代の製鉄業／交通と技術：鉄道／交通と技術：船舶／交通と技術：自動車／交通と技術：飛行機／農業の機械化／測定器・ゲージ／工作機械／塑性加工技術／エジソンと電気産業／カメラ／テレコミュニケーションの発展／合成染料と化学工業の発展／養蚕／化学繊維の登場／栄養の科学／ルイセンコ遺伝学／製薬／企業研究所／慈善財団と科学／第一次世界大戦と科学技術／第二次世界大戦と科学技術／科学技術動員／科学技術予算／冷戦と科学／ CBRNE兵器／デュアルユース／宇宙開発／ビッグサイエンス／巨大実験・観測装置／半導体／コンピュータ／人工知能／ロボット／ナノテクノロジー

■第9章　原子力

社会的実用化前の原子力の歴史（19世紀～20世紀半ば）／核分裂反応の発見／世界の核兵器開発／日本における原爆開発／平和的核爆発の利用論／放射能（放射線）と被ばくの歴史：世界／放射能（放射線）と被ばくの歴史：日本／パグウォッシュ平和運動／原子炉の歴史／核融合研究／世界の原子力開発の歴史／日本における原子力導入と原子力政策の歴史／地域と原子力／原子力事故／福島第一原発事故／反（脱）原発運動の展開／原子力の経済性／原子力の表象／パブリックアクセプタンス／原子力教育の歴史

■索引（事項・人名）／■引用参照文献